

2023年度第1回 豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会 議事録要旨

注) 議事録については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

- 日 時 2023年7月19日(水)午後1時30分～午後3時10分
 - 会 場 豊岡市立野庁舎 A会議室
 - 出席者 委員13名
 - 欠席者 委員4名
 - 傍聴者 2名
 - 協議事項
 - (1) 豊岡市障害福祉計画及び障害児福祉計画の策定方針について
 - (2) グループインタビューについて
- 【質疑応答等】
- グループインタビューについて

委員

- ・ 出石特別支援学校には医療的ケアの必要な子もいるが、グループHの障害児等に含まれるという理解でよいか。

事務局

- ・ 子どもはグループHに含まれる。

委員

- ・ 令和3年に医療的ケア児とその家族に対する支援法が整備されて、病院やサービスが動き始めているという実感がある。

委員

- ・ グループ分けのところで、グループG(重症心身障害者)のところが重症心身障害の大人の方という理解でよいか。重症心身障害児はグループH(障害児等)で、そうするとそこには医療的ケア児も自閉症児も含まれる。グループHは障害の種別としてはすごく大きい年齢で分けてある。
- ・ 医療的ケアの大人はどこに属するか分かりにくい。グループGに入れるなら「重症心身障害者等」とした方がいい。
- ・ 参加者の選出方法について、顔なじみの者で集まると意見が出しやすいというやり方をここ何年かしている。以前、10年以上前には各所属から推薦をしていたこともあった。時間はかかるが、広くサービス事業者や団体に声をかけて、推薦をしてもらう。障害者や家族が自薦他薦で参加した。広くいろんな所属からグループそれぞれに申し込んでというやり方がわりとよかったと思う。ただそうすると人数が・・・。

委員

- ・ 同じ病気を持った家族なら、顔見知りでなくても話が弾むと思う。2～3人には声はかけられる。次の茶話会で(計画のことを)紹介しようと思う。

委員長

- ・ 長い歴史があり、参加しやすい選出方法があると思う。
- ・ この資料にある人数は募集したい人数か？

事務局

- ・ 参考に前回 2020 年の参加した人数を書いている。これが増えてもいいし減ってもかまわないが、8 名が意見交換しやすい人数ということなので、できればそれぐらいが望ましい。
- ・ 今の分け方では医療的ケア児も重心児も「障害児等」と一括りになっているが、法整備もされたことで、分けた方がいいのかご意見いただきたい。

委員

- ・ 決めようがないので、とりあえず募集をかけて、障害別にグループ分けしてみる。逆に、集まった人数が少なければ、1～2 人でするよりも何人かいる方が話がしやすいと思うので、障害が違って一緒にグループになる。このへんは事務局が流動的に判断するのがいいのでは。

委員

- ・ 参加したくても身動きの取れない方、そのケースをどうするか。医療的ケア児の親がグループインタビューに参加するのは困難だ。

事務局

- ・ ヒアリングのような形で、こちらから伺った方がいいか。

委員

- ・ グループインタビューは個別の聞き取りではないとは思いますが。ただグループインタビューに明らかに臨みにくい層はあると思う。
- ・ 障害を受容して間もない就学前児の親は混乱の中にいて情報も欲しいし訴えたいけど、おそらくグループインタビューに臨みにくそう、そのあたりをどうするか。

事務局

- ・ 10 年以上前からグループインタビューという手法を使っている。参加しづらい方の声を聞くにはヒアリングという手法もある。ヒアリングもした方がよいのであればこの場で決めていただけたら。ただ、なぜグループインタビューをしてきたかという、複数で話をする中で化学変化が起きて、一人では考えもしなかったようなアイデアが出てくることを期待している。ヒアリングでもいいが、要望会にならないようにしないといけない。

委員

- ・ 意見反映の話になると思うが、大原則は多様な意見をきく、常時意見が言える状況をつくること。3 年に一度ではなく、様々な意見が常に上がってくる体制を整えるというようなこともこの計画を通して考えていけたらいいと思う。

委員長

- ・ 思いがあるけど参加できない方、就学前児の親の気持ちを聞いてもらえる場があればいいと思う。

委員

- ・ 前に支援学校や作業所のグループインタビューに参加した。不安や心配、いろんな意見が聞けて有意義な時だった。

委員

- ・ 事務局から化学反応を期待してという話はその通りだと思う。無理難題とか要望とか意見はそのグループ内で整理整頓していく。それがメリットだと思うが、やはり臨めない方へのフォローは引き続き検討していきたい。

委員

- ・ 準備が大変かもしれないが、SNSを使って、当事者に向けて広く意見を聴取する仕組みがあれば、参加は難しいけど、家にいながら意見を言いたい方も参加できるのではないかなと思う。

委員長

- ・ オンラインで会議に参加して、チャットや文字で意見を言うのは可能。

委員

- ・ オンラインでリアルタイムで参加という方法もあるし、意見聴取という方法も選べたら。

委員

- ・ 豊岡市の公式ツイッターやラインでテーマに応じて聞いていくと違った意見も出るのではないかな。
- ・ 内容について、困っていることや必要なことを聞いているものが多いが、地域共生社会と言われていて中でどう生きるか、ポジティブに、やってみたいことなど、エンパワーメントな視点は大事かなと思う。

委員長

- ・ 自分の考えが、やりたいこと、やってみたいことの方に向かっていくと前向きになれる。前向きな意見を発言してもらえるのは励みになる。

委員

- ・ 当事者も家族も支援者も一緒にするのか、別々にするのか確認したい。

事務局

- ・ 前回の実績では、基本当事者。事業所内で開催したときは支援者も一緒だったと思う。基本は本人やご家族が対象になる。

委員

- ・ 支援者というのは付き添い。話しやすい環境を作るためのサポートをするだけで、支援者の意見は言わない。
- ・ 当事者と家族はイコールだが、中には家族が一緒だと当事者が意見を言いにくいという場合もあるので配慮が必要。

委員

- ・ 基本は本人でいいと思う。本人が意見を言いたいけど言いにくいときだけ支援者が手助けする。先ほどの話につながるが、日常的に意見反映をするような体制を作っていって、当事者の意見を代弁できる支援者を育てていくという視点も大事だと思う。

委員長

- ・ やはり前回の方法をベースにお願いする形になると思う。

委員代理

- ・ インタビューにはある程度人数が必要だが、医療的ケア児の人数が少なくて声が拾いにくいのではないかな。どんな要素があれば通学、外出がしやすくなるか、そういった意見反映ができたらと思う。

委員長

- ・ 障害児等に医療的ケア児や発達障害を混ぜてしまうと意見を何も言えない人が出てくるのではないかな。様々な意見を出そうと思えば慎重に分けなければいけないと思う。

副委員長

- ・ 重心と医療的ケア児は共通する部分は多いかもしれない。

委員

- ・ I（医療的ケア児）のグループを作ったらいいのではないか。

委員長

- ・ ではグループ分けに一つ追加して「医療的ケア」のグループを作るか。

委員

- ・ 「医療的ケア児・重症心身障害児」か？
- ・ 年齢に応じた課題もある。どちらも絶対数が少ないので、それを分けて聞くことがよいかどうか。療育センターだとどうか？保護者の様子からどうするのが話しやすいか？

副委員長

- ・ 絶対数は少ない。前回も4名。共通する部分もあるし、イメージとしては一緒に集まって。

事務局

- ・ 人数が何人集まるか分からないので、声かけをして集まった方々の人数を見て、委員長・副委員長と相談しながら決めさせていただきたい。

委員

- ・ 進行内容のところで、困っていることや期待することもある必要だが、夢や思いを内容に入れた方がよいと思う。前回の計画を見ても、こんなことをしてほしいという意見が多いので、こんなことをしてみたいという本人の思いを聞けたらいいと思う。

委員

- ・ 豊岡高校を卒業した子のうち、豊岡に残った子は4人。みんな夢を追って京阪神に出て行く。一方支援学校の場合、ほとんどの子が豊岡に残っている。本当は都会に羽ばたいていきたいのに地域に残っている子はどういう夢を描いているのか。どういうふうにサポートできるのかという話もできたらと思う。

委員

- ・ 日本の教育の在り方、インクルーシブ教育とは。日本では障害があれば一般の方と分かれて別の場所で教育を受け、同学年は誰も知らない。18歳になったら地元にいるが地域でも存在がなくなっている。居場所がないつらさがある。現在のそういった障害児の教育の在り方は違うんじゃないか。
- ・ 豊岡市の計画なので、豊岡市で何ができるか、どう進めていくのか、しっかり考えていきたい。

委員長

- ・ 障害があろうがなかろうが、次の世代の方たちが安全安心に暮らしていける豊岡市だということも織り込んだ計画、新しい時代の福祉計画ができればと思う。
- ・ グループインタビューは事務局で取りまとめ、委員の皆さまにはまたご協力をお願いしたい。